

導 | 入 事 | 例

Vol.5

ジャパンナレッジSchool
導入校に注目コンテンツ
やどんな授業に活用した
いかなどを聞きました。



授業づくりに課題づくり、 受験対策でも大いに活用

西武学園文理高等学校

(埼玉県狭山市)

埼玉県狭山市にある中高一貫の私立校。
「すべてに誠をつき最後までやり抜く強
い意志を養う」が教育方針だ。「グロー
バル教育・進学教育・人間教育」の3つの柱
で生徒を育成している。

ジャパンナレッジSchoolをどんなシー
ンで活用しているのか？ ジャパンナレ
ッジを大学時代に利用していたという経験
をお持ちでGoogle for Education認定
トレーナーでもある、国語科の笠原諭先
生にお話をうかがった。

あのジャパンナレッジが自由に使えるなんて…

——ジャパンナレッジSchoolをご存知になったきっかけは？
採用にいたった決め手とは何でしょう？

笠原：2020年9月に幕張で行われた教育ITソリューション
EXPO（教育総合展）でジャパンナレッジSchoolの出展ブース
を見つけたことがきっかけです。同行していた同僚を思わず呼
びとめて、「ジャパンナレッジが定額で、しかも生徒が自由に使
えるなんてすごい！」と力説してしまいました。

半年間トライアルができるというお話をいただき、学校に
持ち帰ってすぐに申し込みました。ちょうどそのころ学校では
探究学習を進めていたのですが、コロナの影響でフィールド
ワークなどの取材にも行けないため、資料不足で困っていま
した。そのため、ジャパンナレッジSchoolで新書や資料類が
使えるというのはまさに渡りに舟でした。

トライアルを経て、探究学習や進学指導での使い勝手が良
いという評価も得られたので、2021年度は一部の学年で導入
し、少しずつジャパンナレッジSchoolを活用できる学年を増
やしていこうということに決まりました。

——笠原先生は大学生のころジャパンナレッジをご利用い
ただいていたそうですね。ジャパンナレッジ Schoolの第
一印象はいかがでしたか？

笠原：大学入学後、図書館が作成している、授業で活用でき

る資料をまとめたパスファインダーの中にジャパンナレッジ
が紹介されていたので、使い始めた記憶があります。検索す
るのにとても便利なツールだったんですが、当時はわざわざ
図書館まで行かないと使えなかったもので、そんなに頻繁には
利用できていなかったですね。ジャパンナレッジSchoolを見
て、「1人1台端末」で「全員が好きなときに好きなように使え
る」とはあまりにも革命的だと思いました。これだけのコン
テンツがいつも自分の手の中にあるのはすごい時代になっ
たな、と。

コンテンツの数としてはジャパンナレッジLibのほうが当
然ながら多いのですが、ジャパンナレッジSchoolは高校生が
使うにはちょうど良い量だと感じています。また「日本国語大
辞典」「国史大辞典」など各教科の中でも特に信頼度の高い
ものが入っていることがありがたいですね。

まずは検索ツールとして活用

——貴校のネット環境、パソコンなどデバイス環境につい
てお聞かせください。

笠原：高校では全館がWi-Fi環境となっています。端末につ
いては、今年度の高校1年生から1人1台Chromebookを導入
しました。そのため1年生は授業中、Chromebookで手軽に
ジャパンナレッジSchoolを活用してもらっています。2、3年
生については指定の端末がないので、学校ではスマートフォン
などから、家ではパソコンからアクセスしてもらっています。

——生徒たちの反応はいかがですか？

笠原：たくさんコンテンツが利用できるからすごい、という感想が多く聞かれますね。また専門的で難しいコンテンツもあるので、背伸びしてチャレンジできるから面白いという反応もありました。

授業ではわからない言葉があったら、まずジャパンレτζ Schoolで調べるようにと言っています。検索ツールとしてジャパンレτζ Schoolにまずは慣れてもらわないことには利用頻度があがりません。そのため、わからない言葉を検索するという形で使うことがいちばん多いと思います。そのうえで国語の授業では電子書籍を読んだり「新編 日本古典文学全集」を読んだりする機会が増えています。また夏休みなど長期休暇中に電子書籍の読書の課題を出すなどしています。

——ほかの先生がジャパンレτζ Schoolを活用されているシーンは？

笠原：Googleアカウントでのシングルサインオンができるようになったおかげで活用が進んでいる印象があります。探究学習でとくに利用していたようです。また学校推薦型選抜や総合型選抜など受験対策においても、電子書籍の新書類などを使って指導しているようです。生徒には新書類を大学の学部学科の分野別に一覧にしたものを作成して、面接や小論文を書く前にできるだけアクセスするように助言しています。

古典の多読につながった課題とは？

——「新編 日本古典文学全集」を使ってユニークな課題を出された先生がいらっしゃったとか？

笠原：高校1年生の古典の授業ですね。同僚の先生が「ジャパンレτζ Schoolを使って古典の多読につながるようなことをやってみたい」と相談を受けたので、お手伝いさせていただきました。ジャパンレτζ Schoolには「古典文学全集」があることを紹介していたことがきっかけでした。その教材単元では『宇治拾遺物語』から興味のあるお話を1つ選んでもらって、3、4人でチームを組んで動画を作成し、プレゼンテーションをしようという課題を実施してくれました。

——生徒のみなさんの反応はいかがでしたか？

笠原：動画でのプレゼンテーションなので特に授業では発表の時間をもうけず、「Flipgrid」というサービスに動画を上げてもらい、それぞれ夏休み中の好きな時間に見てもらってコメント欄に感想を書く、というスタイルで相互評価を実施したのですが、約50人のクラスで総視聴時間が60～70時間にも及んだそうです。つまり、1人1時間以上、視聴しているということになります。自分たちが取り上げたお話だけでなく、ほかのチームがつくったものも楽しく視聴できていることになります。教科書やテストで取り上げられた一部だけではなく、様々な作品を読める「古典文学全集」が活用できたから成り立った課題だと思っています。古文の読解力を上げるためには多読が大切なので、とてもよい単元を実践していただけたように感じます。

——今後どのようにジャパンレτζ Schoolを活用していきたいですか？

笠原：探究学習では信頼できる情報源として、まずはジャパンレτζ Schoolを使うことを約束事として生徒たちに定着できればいいなと思っています。またデジタルが積極的に活用されるからこそ著作権保護についても考えないといけない時代です。生徒たちが資料をつくる際や、先生方の教材づくりの際にも著作権を意識することが大切になってきます。だからこそ、著作権についても配慮されているジャパンレτζ Schoolを使っていくことで著作権の意識が校内に醸成されていけばと感じています。



連絡先

開発・運営

NetAdvance

株式会社ネットアドバンス（小学館グループ）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル3F

e-mail: school@japanknowledge.com

TEL: 03-5213-0875 FAX: 03-5213-0876

販売代理店

紀伊國屋書店

株式会社紀伊國屋書店（ジャパンレτζ School担当）

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10

e-mail: jks@kinokuniya.co.jp

TEL: 03-5719-2501 FAX: 03-5436-6921

2022.04